

2024年度

株主・投資家との対話の実施状況

2025年6月

暮らしに社会にもっと笑顔を。



TOKAIホールディングス



Agenda

1. 株主・投資家との対話
2. 対話の主なテーマ
3. 対話の事例
4. フィードバックの実施状況

1. 株主・投資家との対話について

2

■ 2024年度実績(2024.4.1~2025.3.31)

	実績	活動内容	対応者
決算説明会	年2回 (5・11月)	<ul style="list-style-type: none">➤ 実績の進捗・通期業績予想➤ 企業価値向上に向けた取組み	代表取締役社長 代表取締役専務 取締役(事業会社社長) 常務執行役員(経営管理)
機関投資家 個別ミーティング	延べ 45社	<ul style="list-style-type: none">➤ ミーティング相手先: アナリスト、 ファンドマネージャー、 議決権行使担当者等➤ 国内外割合: 国内70%,海外30%	IR部門

2. 株主・投資家との対話のテーマ

3

Theme

事業戦略

- 中期経営計画(業績予想)の進捗、長期ビジョン
- 資本コストや資本効率を意識した経営
- 事業ポートフォリオ(成長投資分野)
- キャッシュアロケーション(株主還元含む)

Theme

ESG

- E : カーボンニュートラル対応の進捗状況
- S : 人的資本経営の取組み
- G : 政策保有株式の方針

Theme

その他

- LPガスの業界再編について
- 人財確保の現状と対応について

3. 株主・投資家との対話の事例

株主・投資家



建設的な対話

当社



事業ポートフォリオについて、
長期目線で、
どの分野に資金配分していくのか。

- 資本収益性と成長性の2軸で、グループ全体最適を実現するポートフォリオ構築に向けたマネジメントを強化していく。
- 現中計では「エネルギー」「法人向け情報通信」を成長領域と位置付けている。次期中計ではGX関連、海外等の期待領域にも注力していく考え。

株主還元について、
財務の健全化を踏まえ次期中計に向け
どのように考えているのか。

- 株主還元はキャッシュ配分が重要となってくる。事業拡大を優先し、キャッシュを使用していく。
- 株主配当も重要視しており40～50%の配当性向を維持する方針。
- 自己株取得は、キャッシュ配分を見ながら検討していく。

政府が2050年までに
カーボンニュートラル達成を掲げて
いるが、この取組みがLPガス事業に
与える影響は。

- LPガスの燃焼時のCO2排出係数は、LNGを含めた化石燃料の中でもトップクラスの環境性能でクリーンなエネルギー。
- 当社は、自社の事業活動による温室効果ガス排出量を2050年までに100%削減する方針。
- また、高効率給湯器や太陽光発電など環境商品の普及促進に努め、お客様のエネルギー利用におけるGX推進も進めていく。

4. フィードバックの実施状況

投資家、アナリスト等との対話により得られた意見や課題等については、適時に情報共有を実施

■ フィードバック方法

取締役会及び経営会議メンバー、執行役員会メンバー等へタイムリーに情報共有し、経営戦略に反映

IRミーティングの実施状況

年1回

取締役会、経営会議にて直接

投資家・アナリストコメント(決算時の反響)

四半期毎

経営会議、執行役員会にて直接

投資家・アナリストコメント(即時共有事項)

都度

直接またはメール等